

「仏事のイロハ」 お内仏について①

Q お内仏と、お仏壇、違いは？

A お仏壇はお家に迎える仏さまを安置するところです。仏さまを迎えて、手を合わせて日々お念仏もうせば、お内仏となります。亡くなった方をまつところではありません。仏壇はご本尊・阿弥陀如来をまつところです。ご先祖は阿弥陀如来の浄土に生まれ再びこちらへ還ってきて、見守ってくださいています。

浄土を想い、浄土に触れていく場所がお内仏です。合掌するのはどこで行っても

良いのですが、お内仏に向き合うことで自ずと合掌できるようになります。迎えるご本尊は日々合掌する大切なものですから必ず本山・真宗本廟にてお受けするようになしてください。また仏壇を求めるときは葬儀や年忌の時に限らず思い立った時に新調してかまいません。お家の仏壇が活きたお内仏となるよう日々向き合うことが大切です。

入門！浄土真宗①

宗祖親鸞聖人は、師である法然上人との出遇いをおして、阿弥陀仏に帰依して「南無阿弥陀仏」と称えることが、すべての人に開かれた平等な救いの道であるといただかれました。聖人は、生涯にわたる聞思のなかで『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』を撰述し、その教えを「浄土真宗」と顕かにされました。浄土がまこと（真）のむね（宗）である、浄土こそ

がほんとうの依りどころであるということ。浄土は、日ごろのわたしたちの欲望に左右されることなく、どんな状況でも変わらず、失われることのない依りどころです。また「南無阿弥陀仏」のお念仏は、いつでも、どこでも、だれでもできる、普遍の仏道です。苦しみ、悲しみ、悩むわたしたちは浄土を願ってお念仏を申すことで、人として生まれ生きていく意味、すべての人々とともに今生きているということを知らされるのではないのでしょうか。